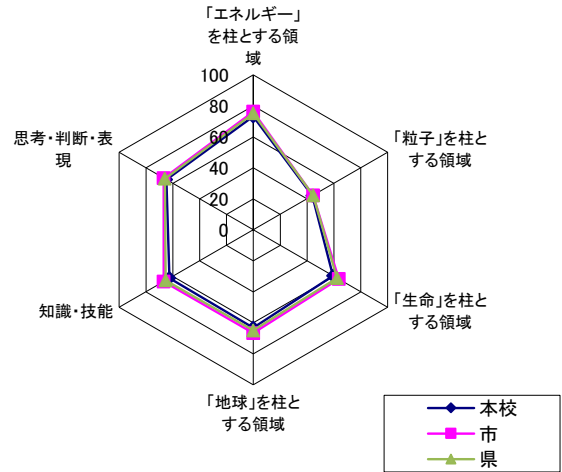


宇都宮市立清原北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	73.2	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	43.9	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	59.3	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	63.2	66.6	64.9
観点	知識・技能	62.5	66.8	65.4
	思考・判断・表現	64.8	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を3ポイント下回っている。 ○「音のせいしつ」については、全ての項目で市・県の平均を上回っている。特に糸電話の声の伝わり方の理解については、市の平均より6.8ポイント高い。 ●「じしゃくのせいしつ」については、市・県より低く、鉄くぎが磁石になったことを確かめる方法を選ぶ問題では、正答率が52.6%と、市より18ポイント低かった。	・電気を通す物と磁石につく物の理解度が低い一因として、実験結果を混同していることが考えられる。今後は、実験目的と結果を比較し、既習事項から学びを広げたり深めたりする活動を行うなど、工夫して知識を定着させていくようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を0.6ポイント下回っている。 ○ものの重さから、同じ種類の木でできている積み木を推測できるかどうかの問題は、市とほぼ同じ正答率で、県より1.2ポイント上回っている。 ●形を変えても重さはかわらないことを理解しているかどうかの問題は、市より2.7ポイント、県より3.6ポイント下回っている。	・ものの重さについて、実際に粘土を使って、向きを変えたり、小さく切ったりなど形を変えて重さをはかる実験を行い、その実験のまとめから重さは変わらないという考察を導き出せるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を4.3ポイント下回っている。 ○昆虫の体のつくりの特徴についての正答率は、市より7ポイント高い。 ●「こん虫の育ち方」についての問題で、トンボの育ち方とモンシロチョウやカブトムシの育ち方の違いについての正答率は、市・県の平均とほぼ同じだが、アゲハが卵をうみつける場所についての問題の正答率は、市の平均より21.3ポイント低い。	・目的をもって植物や生き物を育てたり、昆虫の体を細かく観察したり作ったりするなどして、知識を体験的に身に付けられるようにする。また、ICT機器を活用し、成長の様子を記録して連続で観察するなど目の前の生物が成長する様子をより身近に感じられるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を3.4ポイント下回っている。 ○日なたと日かげの地面の温度の変化を理解しているかどうかの問題では、市より7ポイント、県より8.2ポイント高い。 ●太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかを見る問題の正答率は、市の平均より1.7ポイント高いが、観察の記録から、かげと太陽の位置関係を読み取ることができるかどうかの問題の正答率は、市の平均より1.8ポイント低い。	・話し合い活動や文章で簡単にまとめる活動を通して、事実の背景にある理由について考えられるようにする。 ・観察場所を数か所設け、その結果を比較検討することから普遍的な現象についての知識を定着させる。